

## President's Profile

1936年 長野県松本市生まれ

1960年 文学士(東京外国語大学<中国科>)

1965年 国際学修士(東京大学) 1977年 東京外国語大学教授 1980年 社会学博士(東京大学) 1995~2001年 東京外国語大学学長

1995~2001年 東京外国語大学学長 1998~2001年 国立大学協会副会長

1998~2006年 アジア太平洋大学交流機構 (UMAP) 初代国際事務総長

2000~2006年 財団法人大学セミナー・ハウス理事長

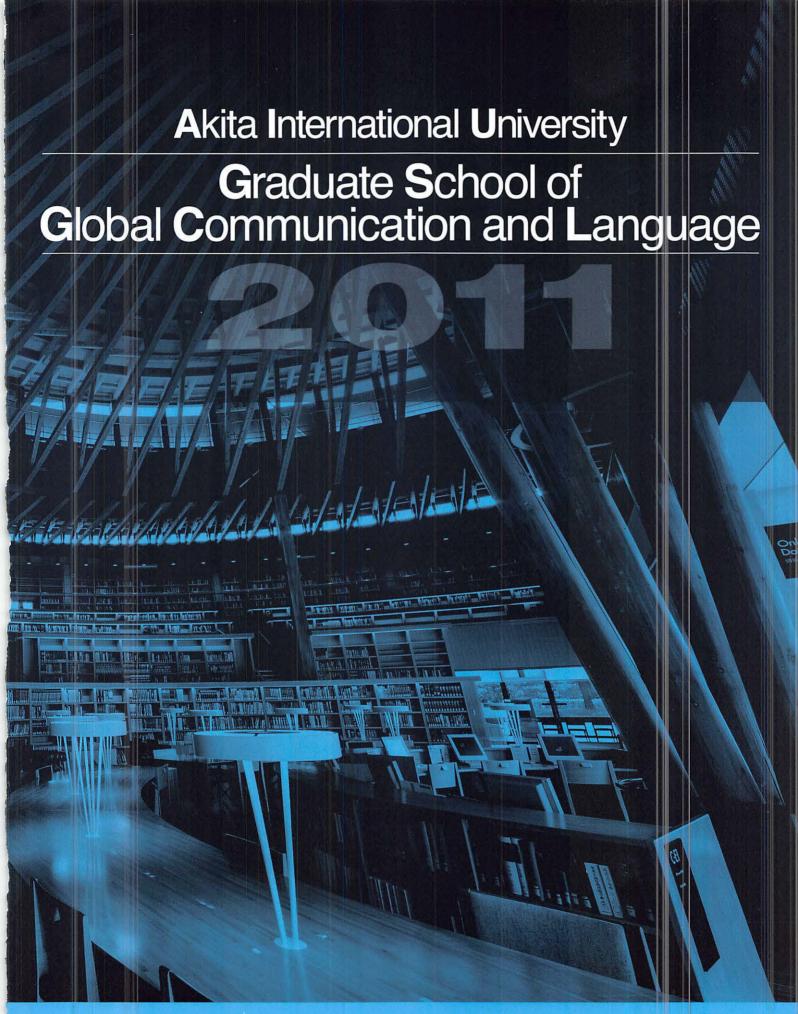
2001~2007年 文部科学省中央教育審議会委員(大学院部会長·外国語専門部会主査)

2004年~現在 公立大学法人国際教養大学 理事長·学長

2006~2008年 内閣教育再生会議有識者委員 2008年~現在 社団法人才能教育研究会会長 オーストラリア国立大学、バリ政治学院、 カリフォルニア大学サンディエゴ校大学院の客員教授を歴任。 著書は「現代中国論」「中ソ対立と現代」 「北京烈烈」(サントリー学芸賞受賞)「国際関係論」 「中国・台湾・香港」「21世紀の大学」「音楽は生きる力」

「全球(グローバル)教育論」など多数。 中国・台湾などについての評論活動で

2003年度「正論大賞」受賞。







1977

1980

#### 学長メッセージ

わが国高等教育のより一層の高度化と知的基盤社会の本格的到来に備えて、従来の大学院とは異なる 専門的・実践的な大学院の制度が専門職大学院としてスタートしたのは、僅々21世紀になってからであり ます。法科大学院やいわゆるビジネス・スクールなどがそれです。しかし本研究科はまさにグローバル化時 代にふさわしい「グローバル・コミュニケーション実践」というこれまでにないユニークな専門職大学院で あり、英語教育実践領域、日本語教育実践領域、発信力実践領域という三つの分野から構成されていま す。各人が国際社会で積極的な役割を果たしていくうえで、もっとも必要な分野の実践力をもった人材を 養成することが本研究科の目的です。

本研究科は、日本語教育の専門科目以外、すべての授業を英語で行い、わが国で初めて全面的な9月 入学といわゆるギャップイヤー方式を採り入れているばかりか、欧米の大学院と同様に広く優秀な人材を 世界から集めるために、入学審査は厳格な書類審査のみによって行うなど、グローバル・スタンダードの大 学院を目指しております。意欲ある志願者の挑戦を期待しています。 中岛花块

### Message from the President

It was as recently as the arrival of the 21st century that a system of graduate schools, apart from conventional graduate schools, was launched in Japan to offer specialized and practical education, in anticipation of further development of higher education in this century and the advent of a full-scale knowledge-based society. Law schools and business schools fall into this category of graduate schools. This Graduate School of Global Communication and Language is a unique professional graduate school that consists of three programs: English Language Teaching Practices, Japanese Language Teaching Practices, and Global Communication Practices. The aim of our graduate school is to produce individuals who are capable of playing active roles in the above fields, thereby contributing to the international

In the AIU graduate school, all courses are taught in English, except for some in the Japanese Language Teaching Practices, and the system of September enrollment and the Gap Year are fully in place, the first of its kind in the country. Furthermore, in order to accept excellent students from all over the world, as do graduate schools in the West, the screening of applicants is strictly conducted exclusively on the basis of documents submitted. Through these new unconventional features, we aim to establish a graduate school of global standards. We eagerly anticipate applications from ambitious individuals.

Mines Nakay

1936 Born in Matsumoto City, Nagano Prefecture 1960

B.A., China Studies (Tokyo University of Foreign Studies)

1965 M.A., International Relations (The University of Tokyo)

Professor. Tokyo University of Foreign Studies

Ph.D., Sociology (The University of Tokyo)

1995 - 2001 President. Tokyo University of Foreign Studies

1998 - 2001 Vice-President, Japan Association of National Universities

1998 - 2006 Founding Secretary-General, University Mobility in Asia and the Pacific (UMAP)

2000 - 2006 President, University Seminar House, Inc.

2001 - 2007 Committee Member. Central Council for Education, the Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology (MEXT)

2004 - Present President and Chair of the Board, Akita International University

2006 - 2008 Member, Cabinet Education Rebuilding Council

2008 - Present President Talent Education Research Institute, Corp.

Visiting professor at Australian National University: Insutitut d'Études Politiques de Paris: The Graduate School of IR/PS, University of California. San Diego.

Publications include, Gendai Chuugokuron (On Contemporary China: Ideology and Politics) Chuuso Tairitsu to Gendai (The Sine-Soviet Confrontation in Historical Perspective). Pekin Retsu Retsu (Beijing in Flux [recipient of the Suntory Academic Prize]), Kokusai Kankei Ron (International Relations), Chuugoku-Taiwan-Honkon (China, Taiwan and Hong Kong), Nijuisseiki no Daigaku (Universities in the 21st Century). Ongaku wa Ikiru Chikara (Music is the Power of Life), Zenkyu(Global) Kyoikuron (On Global Education), and

Winner of the Seiron Grand Prize, 2003



GRADUATE SCHOOL OF GLOBAL COMMUNICATION AND LANGUAGE

# □研究科の構成・概要

国際教養大学専門職大学院「グローバル・コミュニケーション実践研究科」は2008年9月に開設されました。本研究科は、高度な国際コミュニケーションの理論と実践に係る知識と技能を身につけ、グローバル化社会において、外国語により業務ができる高度専門職業人の養成を主な目的とします。そのため、研究科の名称を「グローバル・コミュニケーション実践研究科」、専攻名を「グローバル・コミュニケーション実践専攻」とし、1研究科1専攻の専門職大学院としています。さらに、専攻内に「英語教育実践領域」、「日本語教育実践領域」、「発信力実践領域」の3領域を配しています。

| 研究科・専攻の名称  | 代表等   | 標準修業期間 | 入学定員 | 収容定員 |
|--|---|--------|------|------|
| グローバル・コミュニケーション実践研究科<br>グローバル・コミュニケーション実践専攻<br>◆英語教育実践領域<br>◆日本語教育実践領域<br>◆発信力実践領域 | 研究科長 伊藤 陽一<br>専攻長 伊藤 陽一<br>領域代表 AI LEHNER<br>領域代表 鮎澤 孝子<br>領域代表 伊藤 陽一 | 2年     | 30人  | 60人  |

## 研究科の特色

本研究科は専門職修士課程であることから、理論的、学問的な展開を踏まえつつ、徹底して実用性を重視します。授業では、一方向的な講義に留まることなく、討論などを通して学生の問題意識を引き出すなど、双方向の授業を展開します。また、各領域には、実践研究の専門科目があり、学生はインターンシップ(実習)によって講義での理論的枠組みを現場で実体験し、その習得・深化を図ることができます。このように理論と実践の融合を主眼とするため、以下5つの点を基軸にカリキュラムを編成しています。

- 英語による高度な専門職教育
- 高度な外国語による業務展開が可能となるよう、本研究科の授業(講義・演習・実習等)は、日本語教育関係科目 を除き、英語で行います。
- 「理論と実践の架橋」を基軸とした教育の展開

目を配置し、選択必修としています。

職業現場に関連した理論の習得とその実践を念頭におき、実際に現場で直面しうる問題の解決を重視した授業を展開します。このため、国際的に指導の最前線に立ってきた実務家教員、国際協力・報道の実務経験者、国家首脳レベルの会議通訳・同時通訳の経験者を専任教員として迎え、より実践的な教育を行います。

グローバル・コミュニケーション実践に関するコア科目の配置 国際社会や文化についての基礎理論・知識に関する科目のほか、言語コミュニケーションカ、つまり文章表現力、 口頭表現力など、グローバル・コミュニケーションに関わる実践的な能力を習得するための各領域を超えた共通科